



新学習指導要領の理念実現 — 未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むための授業改善 —

日ごとに秋の気配を感じ、少しずつ過ごしやすい季節となってきました。秋といえば「〇〇の秋」と言われるように、様々な秋を楽しむことができます。

子どもたち一人一人が自分なりの秋を見付け、充実した時間を過ごしてほしいと思います。

さて、来月、「令和3年度那覇市教育課程研究協議会」が実施されます。趣旨には、「新学習指導要領を踏まえ、指導と評価の説明及び研究報告会を実施することで、各教科等のモデルとなる学習活動を示す」「目指す資質・能力の育成のため、各教科等における指導と評価の在り方について全職員に周知し、新学習指導要領の着実な実施を図る」とあります。

1, 「新学習指導要領のキーワード」は

新学習指導要領のキーワードは何ですか？と先生方に問うてみると、「主体的・対話的で深い学び」という答えがかえってくるのが多くあります。

一方で、「資質・能力」という答えがかえってくることはめったにありません。

新学習指導要領の理念が「主体的・対話的で深い学び」という方法論に矮小化されてしまっているのではないかと、考えられます。

新学習指導要領の改訂の中心となるべきは、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という目標を共有することであり、「社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」ということです。

そのための資質・能力が、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性の涵養」ということになります。

そうした資質・能力を育むための方法論として位置づけてあるのが「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善です。

しかし、長年、授業研究を校内研究の中心としてきた学校では、この方法論である「主体的・対話的で深い学び」が研究の中核になりやすいために、肝心の「未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」という重要な視点が抜けてしまう恐れがあるのではないのでしょうか。

2, 「教える」から「学び」へ

未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むためには、授業をどう改善するべきでしょうか。それは、「教える」から「学び」への改善ということになります。

教師がどのように教えるかといった授業設計ではなく、一人ひとりの子どもたちがどのように学ぶのかといった授業設計にします。

例えば、問題解決のためのグループワークや発表、討論、作品づくりなどの活動を学習のなかに位置づけていきます。すると、子どもたちはその過程で仲間と協働せざるをえなくなります。また、教えたり発表したりする内容を充実させようとするれば、おのずと知識や技能を獲得するようになっていきます。

しかし、このような活動中心の授業では、ややもすると学習内容や学習方法が曖昧になってしまいます。そこで、教師は学習の振り返りを確実にに行わせる必要があります。振り返りは「楽しかった」「むずかしかった」などの授業の感想ではありません。「自分たちは何を学んだのか」といった内容知と、「自分たちの学び方はどうだったのか」といった方法知を省察することです。その活動のなかで自己評価や相互評価を行っていきます。

また、教師は子どもの振り返りをよく読んで形成的に評価していきます。「〇〇さんの△△△といった発言がよかった」とか「〇〇さんが私の話をよく聞いてくれた」といった友達へのプラスの評価を促していくと、学習はさらに促進されていきます。

3, これからの学校に求められること

本年度から中学校の新しい学習指導要領が実施されています。今回の改訂で新たに設けられた前文では、これからの学校に求められることの一つとして、次のことが記されています。

「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。」

4, 自分のよさや可能性を認識するには

自分のよさや可能性を認識するには、多様な他者とともに問題の発見や解決に挑むことが大切です。他者と協働する中でも、問題解決の状況を自分なりに捉えて改善を図ろうとするなど主体的に関わり学び合うことができるようにしたいです。

このような学びを基に幅広い知識と教養が身に付き、自分のよさや可能性を認識できるのではないのでしょうか。

コロナ禍の中、ますます予測が困難となるこれからの時代に求められる資質・能力とはどのようなものでしょうか。

ちなみに、那覇地区全体の育成すべき資質・能力は次のように示されています。

- ①「習得した知識や技能を主体的に活用し、粘り強く取り組む態度(主体性・自律性)」
- ②「知識を基に事象のつながりを捉え、多面的・多角的に考察し、課題を解決していく力(課題解決力)」
- ③「多様な考えや立場を理解し折り合いを付けるなど、他者と協力・協働して参画する力(人間関係形成能力)」

様々な社会的変化を乗り越えていくためには、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合い、関わっていくことが重要になってきます。人は、それぞれに好き嫌いや得意不得意があります。それらを乗り越えて主体的に取り組むような教育のあり方が必要だと考えます。

研修 10月 教育研究所事業

5日 (火) 第117期 研究員 入所式 研究所会議室

21日 (木) 中堅教諭等資質向上研修⑩ オンデマンド

25日 (月) 学力向上に係る研修会【講演会】 中山芳一氏

※11/12(金)までのオンデマンド配信期間を設けています。



新刊のお知らせ

書名	著者
『これから教壇に立つあなたに伝えたいこと』	樋口 万太郎
『GIGA スクールに対応した全教科・領域の授業モデル 学校全体でつくるよりよい学び』	新潟大学附属新潟小学校 初等教育研究会
『「常時活動」を位置づけた小学校音楽の真授業プラン』	近藤 真子
『事例と動画でやさしくわかる！ 小学校プログラミングの授業づくり』	Type_T/堀田 龍也

第116期教育研究員 修了式

9月27日(月)に、第116期教育研究員の修了式が行われ、所属園・学校の校長先生をはじめ、来賓の方々にご列席頂きました。半年間の研究の成果を還元していくことを期待します。



令和4年度 研究員の募集について

令和4年度の教育研究員の募集が始まりました。詳細は、デスクネッツ・教育研究所 Web ページにも掲載いたします。先生方の積極的な応募をお待ちしています。

なお、こども園教諭の研究員につきましては、募集要項を確認の上、こども教育保育課担当指導主査へ提出をお願いします。

また、特別研究員の募集も行っております。詳細は、教育相談課担当指導主事へお問い合わせください。